

## 選ばれた側の責任、選んだ側の責任

昨日の六時間目、校長室において、生徒会執行部の生徒に私から任命書を授与しました。その後、生徒会長のY君にバトンタッチをし、彼が専門委員長に任命書を渡しました。全校の皆さんは音声でその様子を知るしかありませんでした。生徒会執行部も専門委員長も堂堂と任命書を受け取っていたことを私から報告しますね。

その時は、リーダーに選ばれた側の生徒たちにスポットが当たったかと思いがちですが、実は別の人たちにもスポットが当たっていたと私は考えています。別の人とはどの人たちかわかりますか。それは放送を聞いていた生徒の皆さんです。リーダーを選んだ側の皆さんです。

生徒会執行部は選挙によって選ばれました。その中の生徒会長によって、専門委員長が指名されました。(生徒会長が一人で選んだのではなく、生徒会役員の合議で決まりました。)したがって、生徒会執行部と専門委員長は、生徒たちが選んだ人たちということになります。

選ばれた人たちは、期待を背負ってその役に就いたわけです。先頭に立って取り組み、成果を収めるといった責任があります。しかし、その人たちだけががんばればよいというものではありません。選ばれた人が存分に力を発揮し、瑞浪北中のために活躍できるようにするためのバックアップが必要です。それをするのは、選んだ側の生徒たちです。

学級組織も同じです。一人一役を決めるとき、立候補であっても推薦であっても、学級で認めて拳手するなり拍手するなりしたはずです。その意思表示は、「あなたに任せます。そのために私はあなたを最大限にバックアップします」という意味であることを忘れてはなりません。それが選んだ側の責任というものです。どんな立場にも選ばれた側と選んだ側があります。それぞれの責任が姿や行動として表れたときに、今年度の生徒会スローガン「築くー繋がり」を大切にし、一人ひとりを尊重して、伝統を創るー」が形となって表れてくると思います。



(七月三日 記)